

公益財団法人日本バレーボール協会 2018年度第3回理事会(臨時) 概要

1 日 時：2018年9月4日(火) 13:00～15:45

2 会 場：日本バレーボール協会 会議室

3 出席者：

理事総数 19名

出席理事 14名

会長（代表理事） 嶋岡健治

副会長（理事） 志水雅一、岡野貞彦

専務理事（代表理事） 八田茂

業務執行理事 鳥羽賢二、鍛冶良則

理事 朝日健太郎、荒木田裕子、加治健男、川合理事、小柴滋、須藤実和、田中祥子、丸山由美（議題2より出席）

監事総数 3名

出席監事 3名 工藤陽子、西川秀人、廣紀江（議題2より出席）

本部長総数 3名

出席本部長 3名 小田桐隆司、村上成司、灰西克博

4 議 長：嶋岡健治

5 決議事項

- (1) バレーボール日本代表選手選考基準について
- (2) 業務執行理事会運営規程について

6 議事の経過の要領及びその結果

会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は、定款第41条に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。続いて、議事録記名押印理事に川合理事を選出し、議案の審議に入った。

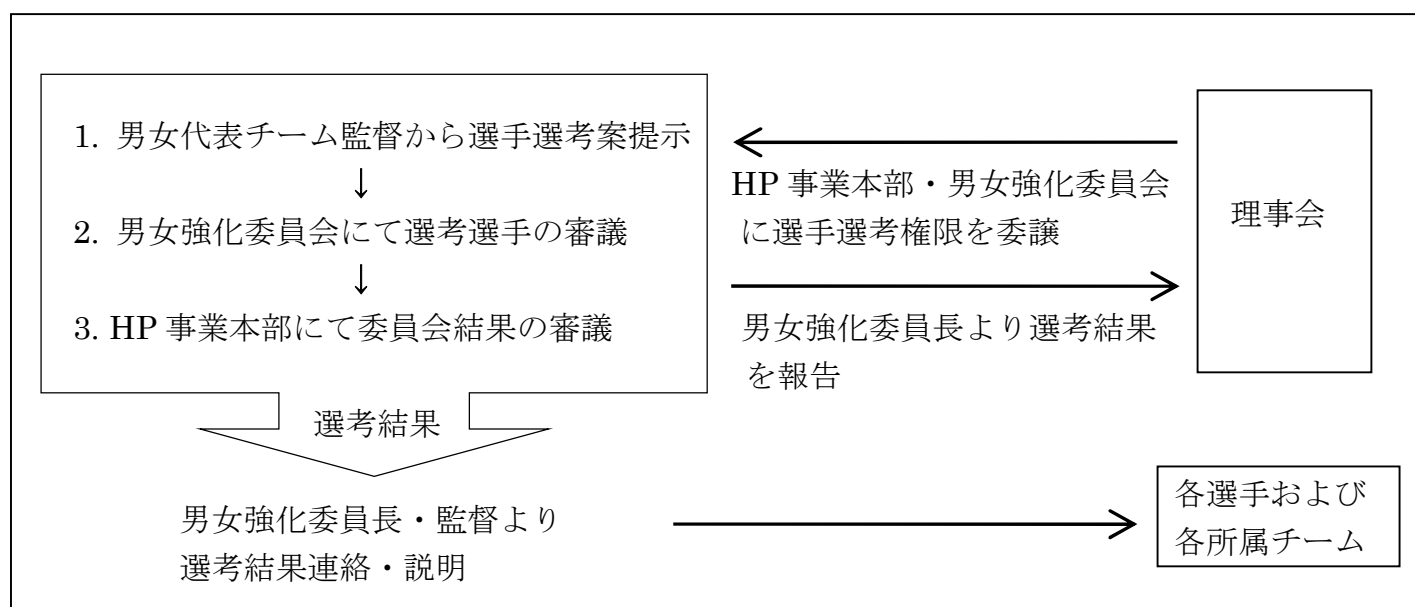
(1) バレーボール日本代表選考基準について

バレーボール日本代表選手選考基準について説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

第32回オリンピック競技大会(2020/東京大会)における日本代表選手選考基準について、以下の項目を規定する。

1. バレーボール日本代表選手選考方針
2. 選手選考の権限
3. 選考基準と選考過程
4. 発表と通知
5. その他

また、日本代表選手選考フローは下記の通りとする。



日本代表選手を選考する最終的な権限は理事会にあるが、オリンピック出場選手選考についてはハイパフォーマンス事業本部及び男女強化委員会に権限を委譲することとし、選手選考結果については、男女強化委員長から理事会への報告事項として上程する。

※日本代表選手選考基準についての詳細は、資料記載の通り

(2) 業務執行理事会運営規程について

業務執行理事会運営規程について下記の通り説明があり、賛否を諮り承認可決された。

前回の理事会で、委員長を除く委員会委員の選任については、理事会から業務執行理事会へ権限を委譲することが承認された。これを機に、受け皿となる業務執行理事会の運営規程を整備すべきとの判断から、今回提案することとなった。

業務執行理事会は代表理事及び業務執行理事をもって構成し、評議員会及び理事会が決議を

する法令に規定する事項、定款及び規程等で規定された事項を除き、JVA の事業運営に関わる重要な事項について決議することができる。

なお、業務執行理事会で決議された事項については、次回理事会において報告されるものとする。

その他、決議の方法（代表理事及び業務執行理事（特別の利害関係人を除く）の過半数が出席し、その過半数をもって行うこと）や事後承認（会長は決議事項であっても、緊急の処理を要する時は業務執行理事会の決議を経ないでも、業務を執行することができるが、次の業務執行理事会に付議し承認を得なければならないこと）等が定められている。

※業務執行理事会運営規程についての詳細は、資料記載の通り

7 報告事項

(1) 中期経営計画の中間報告について

中期経営計画策定にかかわる進捗状況について下記の通り報告があった。

冒頭、嶋岡会長より中期経営計画の策定に向けた決意が述べられた。

2016 年度に JVA では中期計画（2016－2020）を策定しスタートした。2016 年度及び 2017 年度は予測を上回る好決算となり、2017 年度の正味財産期末残高は過去最高の 16.8 億円となった。しかし、2018 年度は状況が一変し、7.3 億円の赤字予算を計上している。

主な要因は、「東京 2020 大会に向けた強化への積極的投資」、「7 月に開催されたビーチバレーボールワールドツアーの収入源確保の問題」、「9 月に開催される 2018 女子バレーボール選手権開催経費の大幅増」などが挙げられる。

2018 年度以降の国際大会を取り巻く状況は大きく変化し、国際大会の誘致競争が激化する中で、日本における国際大会の開催は収支的にも非常に困難を伴うものとなる。特にビーチバレーボールの国内・国際大会は、現時点でも事業化の軌道に乗せることが難しい状況である。

東京 2020 大会以降は「助成金の削除」、「スポンサー・協賛社離れ」、「日本における国際大会の開催リスクの増大」などにより、JVA を取り巻く経営環境はより一層厳しさを増すことになる。このような危機的状況を受け、JVA は中期における財務計画の徹底的な見直しを行い、経営基盤の強化に重点を置いた中期経営計画（2018－2024）を策定中である。2020 年以降の生き残りをかけ、バレーボール界が今度とも安定的に発展することを願い、関係者が危機感を共有し一丸となってこの計画を実行していく所存である。

引き続き、「中期経営計画で目指すこと」、「JVA の事業構造」、「外部環境の変化」、「今後の経営課題」、「事業課題」、「2024 年までの収支予想」、「復活のシナリオ（対策）」、「具体的な施策」についての説明があった。

なお、本日報告された中期経営計画は、たたき台の位置づけであるため、本日の理事会の議論を受け、さらに精査したうえで次回 10 月 2 日の理事会にて正式に提案する予定である。

(2) ハイパフォーマンス事業本部運営規程について

ハイパフォーマンス事業本部運営規程について下記の通り報告があった。

各事業本部の業務内容や権限については、既に事務局規程に定められているが、それを補完する位置づけとしてハイパフォーマンス事業本部運営規程を制定し、ハイパフォーマンス事業本部の基本方針、組織体制、運営方法等を規定した。

なお、本規程は 2018 年 8 月 28 日に開催された業務執行理事会において承認可決され、本日 2018 年 9 月 4 日から施行する。

※ハイパフォーマンス事業本部運営規程の詳細については資料記載の通り

(3) HP 事業本部からの報告について

鳥羽業務執行理事より日本代表バレーボールチーム 2018 出場大会結果と今後のスケジュールについて下記の通り報告があった。

【男子】

日本代表

- ・ FIVB バレーボールネーションズリーグ（各地）⇒ 12 位
- ・ 第 18 回アジア競技大会（インドネシア）⇒ 5 位
- ・ FIVB 世界選手権（イタリア・ブルガリア）⇒ 9/9～9/30 開催

U-20

- ・ U-20 アジア選手権（バーレーン）⇒ 13 位

U-18

- ・ U-18 アジア選手権（イラン）⇒ 優勝

ユニバーシアード

- ・ AVC カップ（台湾）⇒ 3 位

【女子】

日本代表

- ・ FIVB バレーボールネーションズリーグ（各地）⇒ 10 位
- ・ 第 18 回アジア競技大会（インドネシア）⇒ 4 位
- ・ FIVB 世界選手権（日本：横浜／名古屋／札幌／浜松／大阪／神戸）
⇒ 9/29～10/20 開催

U-19

- ・ U-19 アジア選手権（ベトナム）⇒ 優勝

U-17

・U-17 アジア選手権（タイ）⇒ 優勝

ユニバーシアード

・アジア東部地区選手権（中国）⇒ 優勝

U-23

・AVC カップ（タイ）⇒ 9/16～9/23 開催

(4) 委員会に関する報告について

委員会委員等に関する報告について下記の通り報告があった。

■評議員就任に伴う委員会役職等の変更について（2018年6月13日付）

氏名	就任前	就任後
遠藤健三	審判規則委員会 レフェリーインストラクター	退任
柿本章	審判規則委員会（特別委員） 国内事業本部本部員	退任 国内事業本部顧問
神野和幸	MRS 委員会委員 マーケティング戦略事業本部本部員	MRS 委員会顧問 マーケティング戦略事業本部顧問
黒田謙二	国内競技委員会企画部部員 ブロック競技委員長	退任
村瀬登使文	マーケティング戦略事業本部本部員	マーケティング戦略事業本部顧問

※2018年8月28日に開催された業務執行理事会にて承認

■人事異動に伴う追加選任（2018年6月12日付）

氏名	現役職	委員会
斎藤聖二	国内事業本部担当部長	MRS 委員会委員（主事）

※2018年6月12日に開催された業務執行理事会にて承認

(5) NTO 及びコード付与について

東京 2020 大会準備室下山副室長より、東京 2020 オリンピック NTO 及び競技ボランティア「コード」付与対象者の選定（バレーボール種目・ビーチバレーボール種目）の基準及び選定方法についての説明があった。

●1.NTO とは

National Technical Official（国内技術役員）の略で競技運営に必要な有資格者（スコアラー、アシスタントスコアラー、ラインジャッジ等）

※技術統計関係者については調整中

2. 選定基準

- ①NTO としての業務に必要な経験及び資格
- ②首都圏在住の有資格者を優先
- ③ジェンダーバランス（男女間の比率）に配慮し、一定数以上の女性を確保
- ④業務に必要な語学力
- ⑤2020 年以降のレガシーに配慮し、若い世代を優先
- ⑥テストイベント及び各種研修会（組織委員会主催の研修会、JVA 主催の研修会）への参加

3. 選定方法

JVA 審判規則委員会が選定基準を基に選定

●1.競技ボランティア「コード」付与対象者とは

組織委員会が競技運営に必要な人材を確保することを目的として、NF（国内競技団体）を通し「コード」を配布されたボランティア候補を指す（コード付与＝採用では無く、ボランティア募集サイトにて、コードを入力しての応募と一般公募者と同様の採用プロセスによる選考（面接・研修）を受ける必要がある）

※技術ボランティアに限らず、他の活動への配置となる可能性がある

2. 選定基準

- ①国際大会運営経験者を優先
- ②首都圏在住者を優先
- ③ジェンダーバランス（男女間の比率）に配慮し、一定数以上の女性を確保
- ④業務に必要な語学力
- ⑤2020 年以降のレガシーに配慮し、若い世代を優先
- ⑥テストイベント及び各種研修会（組織委員会主催の研修会、JVA 主催の研修会）への参加

3. 「コード」付与対象者の選定方法

JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会が選定基準を基に選定

※「コード」付与対象者以外でもボランティア募集サイトを通じてバレーボール及びビーチバレーボール種目のボランティアへの応募は可能

(6) その他

理事・監事宛てに JVA 役員として MRS（個人登録システム）登録協力依頼がなされた。

※詳細は資料記載の通り。

以上をもって、議事の全ての審議を終了した為、議長は 15：45 に閉会を宣した。